

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790300075		
法人名	合同会社いろはの杜		
事業所名	グループホームいろは		
所在地	沖縄県うるま市字仲嶺298番地2		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4790300075-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	令和3年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者が望む生活を実現できるように支援する」事業理念の下、一人一人の人生で培った価値観・人生観を尊重する支援を心掛けています。地元出身の管理者を中心に馴染みの関係がある民生委員や地域の自治会長、歯科医師、消防団の協力体制がある。行政や地域と連携を取りながら、地域住民と日常的にふれ合うと共に地域の事業所として認知症の理解や普及啓蒙の役割を果たして。地域住民から野菜の差し入れや、畑の提供を受け、入居者と収穫した野菜を食事に提供し、健康面に配慮している。また、調理や洗濯、掃除、水やりなどの役割を持った生活を、楽しみながら体力維持にもつながる支援に取り組んでいる。地元の人々とのつながりを大切にし、新型コロナウイルス感染拡大前は、地域イベントなど積極的に参加し地域交流を深めていた。コロナ禍において、本人の意向に添ってドライブや買い物等日常的に外出ができるよう支援している。看護師が、利用者の日々の健康管理に努めると共にかかりつけ医や訪問診療等と連携し、重度化や終末期ケアの支援体制を整備している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は静かな住宅街にある平屋づくりとなっており、地域の方からの野菜の差し入れや近所の方の畑を借りて野菜の植え付けや収穫などを楽しむことができる環境である。現在、コロナ感染予防のため外出の制限や家族との面会、地域の方との交流が自粛した生活が続き、入居者の心理的ストレス、孤独感の解消に配慮し一人一人の思いに寄り添った支援の提供に取り組んでいる。入居者の健康管理に努め、終末期ケアについても早い段階から支援ができるように医療との連携を図り、入居者本人や家族が安心して過ごすことができるように十分な説明も行っている。職員が働きやすい環境づくりや、意欲をもって長く勤めることができるように法人負担での外部研修や事業所内での研修等、スキルアップの向上につなげられるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は地域密着型施設の意義を踏まえて、作成している。毎朝理念を唱和し、理念に沿った援助を行えるように取り組んでいる。地域や家族と密着した施設をめざし、家族への理念の周知は掲示や利用前、イベントで説明し、地域に対しては、地域親睦会等行事や事業所行事で周知している。職員は、入居者の認知症による行動を理解し、受け止めながら、日課等も入居者自身で選択できるように努めている。	理念は開設当初に職員全員で作成し、入居者の尊厳を大切にし、家庭的で入居者一人一人の思いに寄り添った支援に努めている。毎朝のミーティングで唱和し、職員が理念を確認しながら日々の業務で実践し、地域との関わり合いを大切にしている。入居者やその家族には入居時に理念の説明をし、地域の方へは運営推進会議や事業所行事の時に理念を周知している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩に出かけ、近所の方から季節の野菜をいただくなどの交流がある。また、地域から無償で畑の提供があり、地域住民と植え付けや収穫を楽しんでいる。自治会に加入し、合同生年祝いやミニデイサービス等の行事に入居者と一緒に参加していた。自治会の敬老会で地域の方と余興したり、夏祭りのやぐら建てや片付け、地域草刈り作業を行っている。夏休みのラジオ体操の場所として駐車場を提供するなど、自治会活動に取り組んでいる。庭園の草木を、近所の方がボランティアで選定してくれたり、時々、近隣の子どもの訪問があり、入居者との交流を図っている。	現在コロナ感染対策に伴い、外部の人との接触を避けるため、地域との付き合いも自粛せざるを得ない状況が続いている。事業所は自治会に加入しており、以前は積極的に地域行事に参加して交流を行っていた。地域の方からの野菜の差し入れがあり、また近隣にある畑まで散歩をしながら野菜の植え付けや収穫等も入居者が楽しむことができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、運営推進会議は書面や電話での確認を実施している。その中で、研修で学んだことを事を伝え、認知症の人の理解や支援の方法等を伝えている。また地域の方への福祉車両の貸し出しを行っている。災害時受け入れの自主事業などを行っている。職場体験を受け入れ、認知症の人の理解や支援の方法を通してこれまでの実践を活かし、地域貢献を継続していきたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月実施の運営推進会議には、役所職員、自治会長、老人会長、民生委員、消防団員、家族代表の方が出席している。コロナ感染拡大防止の際は、構成員へアンケートや意見を依頼し、書面や電話での照会を行っている。入居者の活動や運営状況(行事計画・結果報告・外部評価・避難訓練等)について報告し、委員と意見交換を行っている。また、会議の場を利用して委員は地域の情報交換や認知症の勉強会なども行い、議事録を整備し各委員へ配布、靴箱の上に保管し、誰でも閲覧できるように公表している。	これまでは2か月に1回、運営推進会議を開催していたが、コロナ感染症対策に伴い、外部の人との接触を避けるためにオンラインで開催することを検討したが、役所の通信機器の対応許可が受けられなかった。運営推進委員へは文書を郵送し、返信(回答)にて意見や助言を求め、サービスの向上に活かせるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、日常の様子や取り組みを伝え、市の担当者へ会議録提出の際に意見交換している。入居相談など特別な事例についてアドバイスや意見を頂いたり、何か疑問に感じた事や確認したいことがある場合は、相談できる環境にある。グループホーム連絡会のリモート会議や研修への参加や、SOSネットワークに加入連携するとともに、災害時の地域高齢者の緊急受け入れに対応する等、行政と協力事業所と日頃から情報交換などして協力関係を築いている。	市担当者は運営推進会議の委員でもあり、日ごろから報告、連絡、相談を取り合いながら協力関係の構築に努めている。担当地域の包括支援センターへの相談等も行い、連携が取れるように情報交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する内部研修を定期的に行い、拘束による被害や、身体拘束をしないケアへの実践へつながるよう努めている。身体拘束廃止に関する指針を作成し、3か月に1回、身体拘束適正化委員会を開催し記録している。ケアマネジャー、管理者含め職員全員が情報共有し、実践しているケアが身体拘束に含まれているかなどを再確認し、身体拘束の防止に努めている。議事録を整備している。	身体拘束適正化委員会は3か月に1回、全職員が委員となり開催している。会議では身体拘束をしないケアの勉強会や日頃のケアを振り返り、利用者への支援が身体拘束になっていないかの検討等を行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会と合わせて虐待防止の研修を行い、虐待の兆候の発見、どのような言動や態度が虐待に含まれるかを定期的に学ぶ事で、虐待防止に対する意識を高めている。また、高齢者虐待防止マニュアルや自己点検チェックリストなどを活用し、共通理解を深め虐待防止に取り組んでいる。	虐待防止の徹底に向け、3か月に1回勉強会を行っている。グループホームの権利擁護虐待防止に沿った入居者支援が実践されているかどうかの検証や事例を通しての検討を行い、虐待防止に努めている。管理者は職員の健康状態にも留意し、相談にのっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部・内部研修で権利擁護について学ぶ機会を設けている。成年後見制度や日常生活自立支援事業又、基本的人権等、法律や制度について学び権利擁護に対しての理解を深め、これらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は入居者と家族へ必要書類について十分に説明を行い、家族などからの質問にも丁寧に答えながら信頼関係の構築に努めている。また、看取り、解約等についても、十分に説明し同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話にて、現在の状態を伝え、入居者や家族の意見・要望を確認し、課題があれば解決できるようにしている。家族の面会も多く、状況に応じ別部屋で話したり、出来るだけ意見の言い易い環境作りに取り組んでいる。また、トイレに相談箱を設置し、意見や要望に対応できるよう環境づくりに配慮している。近隣のヤギ小屋までの散歩など、利用者からの意見や要望は、居室や散歩時に聞き取り、職員会議で話し合い運営に反映させている。	入居者や家族との対話から、日々の生活や運営面での意見などを聞くように努めている。現在はコロナ感染対策のため通信機器を活用したり、面会したいと希望する入居者と家族には窓越しで対応したりと要望に応えられるように工夫している。相談箱をトイレに設置することで、入居者や家族が職員の目を気にすることなく利用できるように配慮している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や要望は、ショートミーティングや日々の申し送り、業務中等いつでも聴くようにし、個別面談や全体会議でも話し合っている。リビングのレイアウトや効率的な業務遂行に向けて、早番・日勤・遅番・夜勤の役割分担を明確にし、運営に反映させている。また、個人面談を実施し、所長や管理者は職員から意見や提案を聞くよう心掛けている。	日頃から代表者と管理者は、職員とのコミュニケーションを図り、職員の意見を運営に活かしている。管理者は職員から出た意見や要望を全体会議で検討する場を設け、それぞれの意見を聴き調整しながら具体化できるように取り組んでいる。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や要望を、管理者は月1回の全体会議やショートミーティングで把握している。勤務時間の調整など働きやすい職場作りや、有資格者への手当、個々の能力に応じて昇給を行っている。個々の技能(パソコンなど)を生かせるよう、資格取得や研修参加は、職専免とし、勤務シフトは、職員個別の事情を勘案して配置している。子育てや介護などの役割を持つ職員へは勤務時間を変更するなど配慮している。また、代表者や管理者は職員と積極的に交流し、物品の購入や福祉用具の購入へ反映させている。	就業規則が整備され、有給休暇の取得や健康診断の実施、資格取得に向けた支援や研修会への受講支援がなされている。代表者と管理者は、職員一人一人が働きやすい職場づくりを意識しており、自動車運転免許の取得を希望する職員へ取得に向けた支援も行っている。職員との良好な関係を大切にしながら就業環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修などに、積極的に参加できる機会を設けている。研修参加後は、他の職員へ研修内容の報告を行い、研修で習得した内容を職員間で共有できるようにしている。又、職員交代で研修を企画し、担当職員が今、施設に必要な研修を自分で考え、調べ、資料を作成し実施している。前年度、研修制度の導入を行い、外部講師による研修リーダーへの育成に取り組んだ。新型コロナの感染拡大を考慮し、オンライン研修や会議の受講を主にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所等との連携やネットワークづくりを行い、お互いの事業所に不定期に訪問やリモート電話などで交流がある。GH連絡会主催の勉強会や研修に参加し、グループホームでのサービスの質の向上を目指した取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の考えや要望を、表情や仕草といった非言語的な部分からもくみ取り、安心して過ごして頂けるよう共に考え支援している。不安な事など傾聴し、ゆったりと安心して過ごせるよう、日々のケアを再検討しながら、信頼関係の構築に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の考えや要望を理解し、対応方法について話し合うなどしている。入居後の様子をその都度報告し、ケアを再検討するなど信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に十分な情報や要望を聞き取ることにより必要な支援を見極めている。その際、今後必要になるであろう課題に対しても話し合い、迅速に対応出来るよう努めている。他のサービスも本人、家族が希望する場合は、随時関係者と話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段一緒に過ごしていく中で、子育てや園芸など色々な話をすることがあり、学びを得たり時には相談を聞いてもらうこともある。食事等、日常生活を共に楽しみ、支えあう関係ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ日々の暮らしの出来事やご本人の気持ちなど情報を共有し、ご本人の生活を共に支え合い、喜びや苦労を共有出来るような関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者や家族からの話を聞き、思い出の場所や友人宅、馴染みの飲食店等への外出を支援したり、常時電話やテレビ電話などの環境づくりを行っている。また、入居者の元職場訪問や友人、知人等の電話や訪問を歓迎し、馴染みの場所や人とのつながりを大切に支援している。	現在はコロナ感染対策のため、これまで続けてきた一時帰宅の支援や、地域で開催されている敬老会への参加や、イベントの参加も自粛している。コロナ感染に関する外出や面会の自粛緩和がはかられた際には、地域のイベントや一時帰宅など馴染みの人との関係継続の支援に努めていきたいと考えている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	サービス担当者会議実施後、職員間で入居者の思いを共有できる様努めている。入居者個々の過ごし方を考慮しながら、一人一人の思いや暮らし方の希望、意向に沿った支援をし、入居者同士の交流を深め共に支えあう支援を実践している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などがきっかけで退所された入居者様などには、時々電話などでご家族にご本人の状況を確認し、必要に応じて支援できるように声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話などから入居者の暮らしの意向や思いを、関わりの中で話す言葉や態度、表情等から把握している。会話や意思の表出が困難な入居者は表情や行動などから把握し、本人本位となるよう支援している。散歩希望の方は、庭園や近隣のヤギ小屋まで散歩を支援している。また、新型コロナウイルスによる外出制限については、強いインフルエンザが流行しているためと説明し外出制限への協力を得ている。	日々の関わりの中で入居者の希望や思いの把握をするように心がけ、職員間で情報共有もしている。「ハンバーガーが食べたい」「ドライブに行きたい」などの声には個別で応えている。コロナ禍の状況で、日常生活では制限を強いられていることも多い中、一人一人の思いに寄り添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、後に本人や家族、友人、専門職等の情報を基に把握している。また本人との普段の会話かや、ケース会議、申し送りなどで支援の経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケース会議、業務日誌、ヒヤリハット会議などで一日の過ごし方などの情報の共有を行っている。心身の状態や有する力等の現状を把握し支援で活かせるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスにて職員間でアセスメントや意見交換をし、本人家族等と話し合い現状を把握して介護計画に反映させている。長期目標は1年、短期目標は6ヶ月で作成し、状態に変化があった場合は随時見直している。	介護計画は利用者や家族の日々の関わりの中で、思いや意見を聴き反映している。コロナ禍になる以前は、サービス担当者会議は、入居者、家族、担当職員、介護支援専門員が参加し情報共有することができていた。目標の達成状況や状態の変化等に合わせて介護計画を作成、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に食事、排泄、日々の状態や気づき、実践事項を記録し、情報共有や介護計画に活用している。また介護計画に沿って実践されているか、評価を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の外出外泊支援の際、送迎や付添いなど柔軟に対応している。また、入退院や病院受診の際、送迎や主治医へ状態説明を行い診療に活かせるよう支援している。一時帰宅の要望の際、自宅まで送迎や、買い物に行きたいなどのニーズに柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災活動では、消防署や地域の方々の協力を得て、安全な暮らしを支援している。図書館の利用や自治体主催の活動に参加するなどし、入居者が地域資源を生かしながら楽しく過ごせるよう支援している。感染防止の観点から、個別で馴染みの場所の訪問や散歩など、日々の暮らしが豊かになるように支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の際にはかかりつけ医に看護師が事業所独自の受診表に経過及び相談内容、服薬情報等と同時に主治医のコメントもあり、家族、職員間の情報の共有が図られている。定期、緊急に関わらず病院受診は家族対応としているが、ご家族の要望など必要に応じて事業所よりリフト車両の貸出や職員が付き添う等の支援を行っている。看取り介護希望の方がいる場合は、看護師が本人や家族、医師と話し合い、協力体制の構築に努めている。	かかりつけ医については、状況の変化に伴い入所時のかかりつけ医から訪問診療へ変更した利用者、入所時に変更した利用者それぞれ意向を聴取することにより対応している。病院受診の際は、家族の対応であるが、必要に応じてリフト車の貸出等の支援を行っている。受診時の情報交換については、独自の受診表を作成し活用している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護士は入居者の状態を業務日誌や口頭で報告し、個々の方が適切な受診や看護を受けられるように取り組んでいる。また、24時間体制で連絡が取れるようにし、急変時に対応している。訪問診療の看護師へ検温表を提出し、情報を共有、日常の健康管理を行っている。急遽受診の際は電話連絡をし、連携を図り支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ情報提供を行い早期治療へつなげている。入院中は、主治医から治療状況の説明を受けるとともに、本人の気持ちや意向を伝え、安心して治療を受けられるよう、病院関係者との関係づくりに努めている。治療が終了した場合、医師と連携し、早期退院へつながるよう働きかけ、生活の場へ戻る支援を実践している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応及び看取りケアの指針を作成し、家族に説明、同意を得ている。過去には5度看取りを経験している。職員間で勉強会を行い、看取るという人生の最後に寄り添うことや、急変時の対応、3か月前～1か月前の兆候、終活終末期ケアのイメージが出来るように取り組んでいる。看取りは特別なことではなく、生活の上の継続であると職員へ説明し、不安軽減と意欲の向上に繋がるよう働きかけている。家族や医師、関係者と連携し、入居者が安心して最期を迎えられるよう支援体制を確立している。	事業所は、看取り対応についての指針が明確であり、入所時・必要時に利用者・家族へ適切な説明を行っている。看取り介護に関する研修も看護師である代表を講師として頻回に実施している。研修以外にも看取り対応の経験者が複数在籍しているため、未経験の職員に対してその経験を伝承することにより、職員全体の看取り対応に対する意欲の醸成を図っている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講や、緊急時対応マニュアル、高齢者に起こりやすい事故、外傷マニュアル、各入居者の内服内容などファイリングしつつも閲覧できるようにしている。有事の際に、職員全体が応急手当や初期対応ができるよう整備し実践力を身に付けている。	事故発生時の対応について、連絡体制が整備され職員間で共有されている。緊急対応時のマニュアルも整備され、職員の適切な対応に繋がっている。事故報告書については、職員会議で報告し職員全体で共有することにより事故防止に努めている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	防災訓練は消防署や地域の方との協力体制の下、年2回総合訓練を実施している。地域の消防団とは普段から交流し協力依頼している。また、避難通路や消火器の位置を確認するなど定期的に行っている。職員は訓練を重ねる毎に意識を高めている。災害対応マニュアルや備蓄も整備され、台風・地震時のマニュアルも整備している。感染症予防及び蔓延防止のために定期的な委員会の開催や指針を整備し、施設内研修や訓練を実施している。	防災訓練は、地域住民の参加・協力を得て、実践的な訓練を昼・夜対応の2回実施している。備蓄については、保管場所・消費期限について職員間で共有している。訓練前後には、役割確認等の話し合いや訓練後のフィードバックを行い、次の訓練の改善点を明確にしている。感染症対策については、指針を整備し事業所内での研修を実施している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊厳のある生活を支援する」事業理念の下、個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した声掛けや対応をしている。個人情報保護方針を整備し、就業規則へも守秘義務を明記している。入居者は自らの不在時や夜間には、居室が施錠できるなどプライバシーを尊重した支援を行っている。	就業規則や運営規程には、守秘義務に関する事項を明記している。日常の介護においては、トイレ誘導時等の際に、利用者の尊厳に配慮した声掛けを実践している。事業所理念の冒頭には、「尊厳」の項目があり、職員は日々利用者の尊厳ある生活に配慮したケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「入居者が望む生活を実現できるように支援する」事業理念の下、入居者を中心とした意思決定支援を実施し、想いや希望が表出できるよう心を寄せ、生活の中で、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「入居者が望む生活を実現できるように支援する」事業理念の下、一日のスケジュールは決めず、出来るだけ入居者の意向に沿って、その人のペースに合わせて支援している。買い物や散歩、自宅訪問等、臨機応変に入居者の希望に添った支援を実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの理・美容室へ通えるように支援している。化粧水や化粧品、マニキュアなども用意し、いつでもおしゃれや身だしなみが整えられるように支援している。整髪や爪切りなど、本人の好みに整えられるように支援している。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設での食事は職員が交代で3食調理している。施設内にある菜園の野菜や地域、家族から食材の差し入れもあり取り入れている。入居者と一緒に買い出しや野菜の収穫、下ごしらえ、簡単な調理や食器洗いなどを入居者と一緒に取り組み、職員も一緒に食卓を囲み同じ食事を一緒に摂っている。コロナ禍においては、ドライブ帰りにテイクアウトするなど、外食の希望にできるだけ対応している。	近隣の畑の所有者から、薬草やシークワサー等の差し入れがある。施設内の菜園にも野菜を栽培し、利用者と共に収穫を行い、食材として活用している。3食共に職員が調理を行い、下ごしらえや食後の片付け等、利用者のできることを引き出している。職員も一緒に食卓を囲み食事を楽しむ環境づくりを図っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録管理し、一日の食事量や水分量が確保できるようにしている。又、個人の嗜好に合わせて、コーヒーなど何種類か飲み物を用意している。栄養バランスのとれた食事を提供しながら、日々の体調に合わせた食事形態を提供し、食事の姿勢などを整え、誤嚥防止へも努めている。また、好きな食事の確認を行い、メニューへ反映させている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ、個々の状態に合わせた口腔ケアを行い支援している。また、歯科医と連携し、口腔内の清潔状態がより良く保てるように体制を整えている。予防医学の観点から、歯科医師が運営推進会議や行事の際にミニ講話を行い、職員やご家族、ボランティアの方々の意識改革へもつながっている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄状況を把握し、全員声掛けしトイレ誘導を行っている。入居者個別に排泄支援を位置付け、自ラトイレに行く入居者に対し、排泄前後は見守りにより排泄状況の把握や、声をかけ一部介助して身体機能の維持にも配慮して支援している。入居後、テープタイプオムツが外れリハビリパンツへ移行できた方も多く、自立に向けた支援を継続している。玄関近くのトイレは、直接浴室へ繋がる引き戸があり、失禁等に迅速に対応できるよう工夫されている。	排泄支援については、「利用者の尊厳ある生活支援」という理念に即して排泄の自立に向けた支援を実施している。排泄チェック表の分析・把握の下に、利用者のトイレ誘導を全職員で行っている。その結果、入居時には、おむつを使用していた利用者が、リハビリパンツへの移行につながった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の状態に合わせ、飲食物の工夫や水分量の調節を行っている。食物繊維の摂取の為食事におから等を取り入れている。また、自宅にいる時から便秘時にはセンナ茶で対応していた方に対し、煮つめたセンナ茶や、牛乳希望者には朝食時牛乳を提供している。主治医と連携し、薬剤調整も行い排便促進支援を行っている。体調に合わせて適度な運動を、一日の活動の中に取り入れ支援している。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	目安として入浴日を決めているが、基本毎日入浴が可能なので、本人の要望や入浴状況など、個々の状態に沿った入浴支援を実施している。一人入浴が基本であり、シャンプーやボディソープ、保湿液、着替え等本人に選んでもらっている。髪のパサつきが気になる方もいるため、ヘアエッセンスやオイルを用意している。好きな音楽を聴きながら入浴する方などもあるため、リラックスして過ごせるよう支援している。	入浴については、基本的にいつでも入浴できる職員体制をとっている。毎日夕方や朝の入浴を希望する利用者についてそれぞれの意向に対応した支援を行っている。目安となる入浴日は設定しているが、臨機応変な対応に配慮している。シャンプーやリンス等利用者個々の好みで選択できる。香りのよいオイルやヘアエッセンスも用意し、入浴を楽しむ環境整備を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠のある方へ、白湯や馴染みのあるハーブティーを提供し、安眠できるよう支援している。日中はリビングで過ごす入居者が多く、入居者が自由に居室で休めるように、見守りや声掛けを行っている。居室での休息を好まない入居者は、ソファやベットや和室を利用し、休息を支援している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能、用法、副作用の説明ファイルを作成し職員が理解し、服薬後の経過、状態確認を行っている。看護師が主治医と連携し、減薬や一包化などを調整し、服薬支援に努めている。服薬マニュアル、手順書に沿い、薬の準備、与薬、記録を行い誤薬を防止をしている。疑問に思うことは、看護師や薬剤師からの説明を受けるなど、情報を共有し実践に活かしている。	利用者個々に投薬説明ファイルが用意されていて、職員は常に確認できる。変更時には、情報共有の徹底を図っている。服薬支援についてのマニュアルが整備されており、フローチャートが薬保管場所に掲示され、手順の確認を行い服薬、服薬後のお薬チェック表の記入まで、誤薬予防を徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝食後の食器洗いや、リビングの掃除を手伝ったり夕食後テーブルを拭く、野菜の仕分けするなど個々の要望やご家族からの意向を汲み、持っている力を引き出しながら支援している。嗜好品や音楽鑑賞、観劇など、楽しみながら気分転換が図れるよう支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染予防に留意し、面会制限や不要外出を控えながら、馴染みの場所やドライブスルーなどの外出支援を行っている。また、散歩、日光浴、菜園の手入れなど本人の希望に添った支援を行っている。コロナが終息した際は、以前のように書店で本を購入したり、買い物やカラオケ、回転すし、クラシックコンサートなど楽しみたいという要望がある。恒例の初詣や鯉のぼり見物や、地域のミニデイや生年祝い、餅つき大会等の行事の参加も、状況に合わせ支援していく予定。病院受診や外出の際に、福祉車両の貸出を行っている。	コロナ禍以前は、利用者の意向に沿って、近隣のコンサートホールや闘牛場、買い物・カラオケ等外出支援を行ってきた。昨年来の緊急事態宣言中は、制限のある中工夫した支援を行っている。利用者の何気ない「ハンバーガーが食べたい」という発言に呼応し、ドライブスルーでテイクアウトしたり、海へのドライブ等を実施した。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品や嗜好品の購入の際、自分で払える方は、レジで金銭のやり取りができるように支援している。ご本人やご家族の要望により、金銭を預かる場合は預り金規定に基づき、金銭管理を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親しい方からの電話は、その都度対応している。また、暑中見舞いや年賀状を書くなどの支援を行っている。家族からの返書や、入居者へ向けたお礼品を頂くこともあり、とても喜ばれている。日記をつけている方がいて、ご家族へ気持ちを伝えるための支援を実践している。ご家族は面会時に読み、日々の気持ちを確認している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手すりやテーブルの消毒、換気で感染予防を図っている。空調の調整にて快適な空間を提供している。玄関や壁には季節に応じて入居者と一緒に飾りつけを替え、季節感が感じられるようにしている。リビングでは、一人で食事を希望されている方のために、個別のテーブルを用意している。入居者が職員と食事のメニューを決めたり、収穫した薬草を提供しやすい配置になっている。ニッチには思い出の品などを飾っている。BGMはリクエストで民謡・懐メロなどをミックスでながし、心地よく過ごせるような空間づくりをしている。	事業所は、住宅街に位置した平屋建ての建物で周囲は、菜園等緑あるれる環境である。玄関には、季節に応じた飾りつけが施されている。キッチンとリビングは利用者の活動に配慮した配置を行っている。代表者の愛犬であるトイプードルは、頻回に事業所を訪れ利用者の癒しの存在となっている。空調管理や照明等に配慮し、居心地良い空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のリビングはテレビ、ソファ、ダイニングテーブルを配置し、それぞれお気に入りの場所で過ごしている。個人が愛用する椅子を置き過ごしやすくしている。居室に近いテーブルで過ごす方、テレビに近い席を好む方など入居者それぞれの好みを配慮している。また、回転式で座り心地がよく、立ち上がりやすい椅子を配置し、自立に向けた支援を行いながらゆったりと過ごせる工夫も行っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	より住みやすい環境作りの為、本人や家族と相談し、使い慣れたラジオ、棚や椅子、寝具を持ち込んで頂いている。冷暖房や扇風機が完備され、本人が心地よく過ごせるように工夫している。居室のボードの写真を時々家族が張り替えたり、入居者が信仰している教え等を見守っている。計画に、居室の環境整備を位置付け、自立へ向けた支援を実施している。	それぞれの居室には、エアコン、ベッド、タンス、防火カーテンが整備されている。また自宅等で使い慣れた家具等が持ち込まれ配置されている。写真等を掲示するためのボードが用意され、家族等の写真や絵等が掲示されている。家族が訪問した際には、写真や掲示物の張替などをもに行うことにより、交流を深めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の入居者の力を見極め、トイレや居室入口には目印を設置し、場所が分かるように配慮している。日々の関わりの中で、洗濯物干し、たたみ、食事の準備等の家事が安全な環境でできるよう準備したり、見守り支援をしている。施設内・外をバリアフリーとし、椅子や家具の配置を工夫するなどして安全に過ごせる環境づくりを実践している。		

目標達成計画

作成日: 令和 3 年 12 月 15 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4 (3)	運営推進会議を活かした取り組み	対面での会議を開き、出来るだけよりリアルな意見を聞けるようになりたい。	新型コロナウイルス感染予防対策の為、対面での会議が難しく、報告書を作成し、文書にて意見を求めたが、今年度は感染症対策を行いながら、徐々に元の形式の会議に戻していき、よりリアルな意見を聞きたい。	6か月
2	12 (9)	就業環境の整備	職員一人一人が働きやすい環境を整備する。	職員一人一人が意見を言いやすいように代表者・管理者は職員との良好な関係を大切にしながら就業環境の整備に務める。	6ヶ月
3	23 (11)	思いや意向の把握	入居者の思いや意向の把握をし、入居者の本人本位の支援を行う。	職員全体で入居者の生活既往歴、病歴、今現在興味があることを会話や動作を通して把握し、共有を行い、入居者一人一人に寄り添った本人本位の支援を行う。	4か月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。